

(様式第 10)

形大医管第 1097号
平成30年10月4日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人山形大学
医学部附属病院
病院長 根本 建二

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|---------------------------------|
| 住 所 | 〒990-8560 山形県山形市小白川町 1 丁目 4-1 2 |
| 氏 名 | 国立大学法人山形大学 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|-------------------|
| 国立大学法人山形大学医学部附属病院 |
|-------------------|

3 所在の場所

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 〒990-9585 山形県山形市飯田西 2 丁目 2 番 2 号 | 電話(023)633-1122 |
|-------------------------------------|-----------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

| 内科 | 有 | 無 |
|--|---|---|
| 内科と組み合わせた診療科名等 | | |
| 1呼吸器内科 | | |
| 2消化器内科 | | |
| 3循環器内科 | | |
| 4腎臓内科 | | |
| 5神経内科 | | |
| 6血液内科 | | |
| 7内分泌内科 | | |
| 8代謝内科 | | |
| 9感染症内科 | | |
| 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 | | |
| 11リウマチ科 | | |
| 診療実績 | | |
| 標榜としては「内科」に包括されているが、上記診療科名に含まれる領域について網羅的に診療を行っている。 | | |

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | | | |
|--|-----------|--------|-------|
| 外科 | (有) ・ 無 | | |
| 外科と組み合わせた診療科名 | | | |
| 1呼吸器外科 | 2消化器外科 | 3乳腺外科 | 4心臓外科 |
| 5血管外科 | (6)心臓血管外科 | 7内分泌外科 | 8小児外科 |
| 診療実績 標榜としては「外科」に包括されているが、上記診療科名に含まれる領域について網羅的に診療を行っている。 | | | |

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | | |
|----------|---------|---------|-----------|----------|----------|-------|
| (1)精神科 | (2)小児科 | (3)整形外科 | (4)脳神経外科 | (5)皮膚科 | (6)泌尿器科 | 7産婦人科 |
| (8)産科 | (9)婦人科 | (10)眼科 | (11)耳鼻咽喉科 | (12)放射線科 | 13放射線診断科 | |
| 14放射線治療科 | (15)麻酔科 | (16)救急科 | | | | |

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | | | |
|---|---------|---------|--|
| 歯科 | (有) ・ 無 | | |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | | | |
| 1小児歯科 | 2矯正歯科 | (3)口腔外科 | |
| 歯科の診療体制 一般的な歯科診療は診療所等の連携先で行い、特定機能病院である大学病院としては、主に複雑な症例について、医師10名程度で診療を行っている。 | | | |

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | | | | | |
|--------|--------|---------|--------------|----|----|
| 1 循環器科 | 2 形成外科 | 3 病理診断科 | 4 リハビリテーション科 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | | | |

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|-----|-----|----|----|------|------|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| 36床 | 床 | 床 | 床 | 601床 | 637床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|------|----------------|--------|---------|-----|---------------|-----|
| 医 師 | 340人 | 7.7人 (21人) | 347.7人 | 看護補助者 | 76人 | 診療エックス線 技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 8人 | 0.7人 (1人) | 8.7人 | 理学療法士 | 11人 | 臨床検査技師 | 44人 |
| 薬剤師 | 38人 | 0人 | 38人 | 作業療法士 | 7人 | 衛生検査技師 | 0人 |
| 保健師 | 0人 | 0人 | 0人 | 視能訓練士 | 6人 | その他 | 0人 |
| 助産師 | 16人 | 0.7人 (1人) | 16.7人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0人 |
| 看護師 | 564人 | 13.7人 (22人) | 577.7人 | 臨床工学士 | 17人 | 医療社会事業従 事者 | 7人 |
| 准看護師 | 0人 | 0人 | 0人 | 栄 養 士 | 0人 | その他の技術員 | 3人 |
| 歯科衛生士 | 3人 | 0人 | 3人 | 歯科技工士 | 1人 | 事務職員 | 81人 |
| 管理栄養士 | 7人 | 0人 | 7人 | 診療放射線技師 | 42人 | その他の職員 | 98人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|---------|-----|----------|------|
| 総合内科専門医 | 28人 | 眼科専門医 | 12人 |
| 外科専門医 | 24人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 9人 |
| 精神科専門医 | 7人 | 放射線科専門医 | 10人 |
| 小児科専門医 | 18人 | 脳神経外科専門医 | 9人 |
| 皮膚科専門医 | 10人 | 整形外科専門医 | 19人 |
| 泌尿器科専門医 | 13人 | 麻酔科専門医 | 12人 |
| 産婦人科専門医 | 14人 | 救急科専門医 | 3人 |
| | | 合 計 | 188人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (根本 建二) 任命年月日 平成28年4月1日

| |
|-------------------------------|
| 医療事故等防止対策委員会委員 平成28年4月1日 ~ 現在 |
|-------------------------------|

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|---------|-------|---------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 561.1人 | 5.6人 | 566.7人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1249.3人 | 53.0人 | 1302.3人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 942.6 剤 | | |
| 必要医師数 | 133人 | | |
| 必要歯科医師数 | 5人 | | |
| 必要薬剤師数 | 19人 | | |
| 必要(准)看護師数 | 328人 | | |

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設 備 概 要 | | | |
|----------|--|----------|--|-----|---------|-----------|
| 集中治療室 | 129.5 m ² | 鉄筋コンクリート | 病床数 | 6床 | 心電計 | 有・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | 有・無 | 心細動除去装置 | 有・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | 有・無 | ペースメーカー | 有・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 109.69m ² [移動式の場合] 台数 台 | | 病床数 | 8床 | | |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床積 49.65m ² [共用室の場合] 共用する室名 | | | | | |
| 化学検査室 | 364.08m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 臨床科学自動分析装置、血糖・A1c測定システム、免疫検査装置、蛋白分画測定装置 | | | |
| 細菌検査室 | 70.00m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 自動細菌同定/感受性検査装置、LAMP法測定装置、結核用測定装置 | | | |
| 病理検査室 | 156.16m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | | | |
| 病理解剖室 | 80.61m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | | | |
| 研究室 | 10,583m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) | | | |
| 講義室 | 275m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 1室 | 収容定員 | 224人 |
| 図書室 | 1,195m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 7室 | 蔵書数 | 93,247冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| | | | | |
|------------------|------------------------|----------|------|---------|
| | 紹介率 | 75.7% | 逆紹介率 | 75.99 % |
| 算 出 根 拠 | A: 紹介患者の数 | 11,039 人 | | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 12,250 人 | | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 1,231 人 | | |
| | D: 初診の患者の数 | 16,206 人 | | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|------------------------|---------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------|
| 栗谷 義樹 | 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長 | ○ | 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 1 |
| 阿彦 忠之 | 山形県健康福祉部医療統括監 | | 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 2 |
| 久保田 功 | 山形大学理事 (病院担当) | | 病院関係業務を担当する理事 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 3 |
| 西岡 正樹 | 山形大学学術研究院 | | 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 1 |
| 佐多 和子 | 山形家庭裁判所家事調停委員 | | 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 2 |
| | | | | 有・無 | |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 委員名簿の公表の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| 公表の方法 本学のホームページに掲載 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--|-------|
| 神経変性疾患の遺伝子診断 | 9人 |
| 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定(T細胞性-愛知医科大学) | 1人 |
| 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定(B前駆細胞性-名古屋医療センター) | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--|-------|
| 放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発悪性腫瘍リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。) | 2人 |
| FDGを用いたポジロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。) | 0人 |
| 周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんとして診断されたものを除く。) | 5人 |
| mFOLFOX6 及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 胃癌(腺がん及び腹膜播種であると確認されたものであって、抗悪性腫瘍剤の経口投与では治療が困難なものに限る。) | 0人 |
| テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。) | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|-----|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 1 | 56 | ベーチェット病 | 71 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 14 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 33 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | 17 | 58 | 肥大型心筋症 | 5 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | 2 | 59 | 拘束型心筋症 | 2 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 1 | 60 | 再生不良性貧血 | 16 |
| 6 | パーキンソン病 | 51 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 0 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 12 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | 1 |
| 8 | ハンチントン病 | 7 | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 12 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | 2 | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 0 |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 5 | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 6 |
| 11 | 重症筋無力症 | 39 | 66 | IgA 腎症 | 8 |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | 0 | 67 | 多発性嚢胞腎 | 7 |
| 13 | 多発性硬化症/視神経脊髄炎 | 35 | 68 | 黄色靱帯骨化症 | 2 |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー | 18 | 69 | 後縦靱帯骨化症 | 15 |
| 15 | 封入体筋炎 | 4 | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | 3 |
| 16 | クロー・深瀬症候群 | 2 | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 57 |
| 17 | 多系統萎縮症 | 7 | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 2 |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 30 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | 1 |
| 19 | ライゾソーム病 | 4 | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 23 |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | 26 | 75 | クッシング病 | 8 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 2 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | 5 |
| 22 | もやもや病 | 54 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 23 |
| 23 | プリオン病 | 3 | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | 71 |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | 8 | 79 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 3 |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | 1 | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | 0 |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | 1 | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | 1 |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | 8 | 82 | 先天性副腎低形成症 | 1 |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 1 | 83 | アジソン病 | 4 |
| 29 | ウルリッヒ病 | 1 | 84 | サルコイドーシス | 40 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | 3 | 85 | 特発性間質性肺炎 | 17 |
| 31 | ベスレムミオパチー | 1 | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 9 |
| 32 | 自己貪食空胞性ミオパチー | 0 | 87 | 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症 | 1 |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群 | 7 | 88 | 慢性血栓性肺高血圧症 | 12 |
| 34 | 神経線維腫症 | 15 | 89 | リンパ脈管筋腫症 | 4 |
| 35 | 天疱瘡 | 20 | 90 | 網膜色素変性症 | 25 |
| 36 | 表皮水疱症 | 2 | 91 | バッド・キアリ症候群 | 2 |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 8 | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 5 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 2 | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 43 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | 5 | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | 2 |
| 40 | 高安動脈炎 | 20 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 7 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | 0 | 96 | クローン病 | 60 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 7 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 146 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 28 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | 1 |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 5 | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 0 |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 6 | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | 0 |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 5 | 101 | 腸管神経節細胞減少症 | 0 |
| 47 | パージャー病 | 13 | 102 | ルビンシュタイン・テイビ症候群 | 0 |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 0 | 103 | CFC症候群 | 0 |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 125 | 104 | コステロ症候群 | 0 |
| 50 | 皮膚筋炎/多発性筋炎 | 37 | 105 | チャージ症候群 | 0 |
| 51 | 全身性強皮症 | 55 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 0 |
| 52 | 混合性結合組織病 | 27 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | 1 |
| 53 | シェーグレン症候群 | 10 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | 0 |
| 54 | 成人ステル病 | 10 | 109 | 非典型性溶血性尿毒症症候群 | 0 |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | 3 | 110 | ブラウ症候群 | 0 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------|-----|-----|--------------------|-----|
| 111 | 先天性ミオパチー | 0 | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 0 |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群 | 2 | 162 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 4 |
| 113 | 筋ジストロフィー | 0 | 163 | 特発性後天性全身性無汗症 | 0 |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | 0 | 164 | 眼皮膚白皮症 | 0 |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 0 | 165 | 肥厚性皮膚骨膜炎 | 0 |
| 116 | アトピー性脊髄炎 | 0 | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫 | 0 |
| 117 | 脊髄空洞症 | 1 | 167 | マルファン症候群 | 2 |
| 118 | 脊髄髄膜瘤 | 0 | 168 | エーラス・ダンロス症候群 | 0 |
| 119 | アイザックス症候群 | 0 | 169 | メンケス病 | 0 |
| 120 | 遺伝性ジストニア | 0 | 170 | オクシピタル・ホーン症候群 | 0 |
| 121 | 神経フェリチン症 | 0 | 171 | ウィルソン病 | 2 |
| 122 | 脳表ヘモジデリン沈着症 | 1 | 172 | 低ホスファターゼ症 | 0 |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 | 0 | 173 | VATER症候群 | 0 |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | 2 | 174 | 那須・ハコラ病 | 0 |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | 0 | 175 | ウィーバー症候群 | 0 |
| 126 | ペリー症候群 | 0 | 176 | コフィン・ローリー症候群 | 0 |
| 127 | 前頭側頭葉変性症 | 2 | 177 | 有馬症候群 | 0 |
| 128 | ピッカースタッフ脳幹脳炎 | 0 | 178 | モワット・ウィルソン症候群 | 0 |
| 129 | 痙攣重積型(二相性)急性脳症 | 0 | 179 | ウィリアムズ症候群 | 0 |
| 130 | 先天性無痛無汗症 | 0 | 180 | ATR-X症候群 | 0 |
| 131 | アレキサンダー病 | 0 | 181 | クルーゾン症候群 | 0 |
| 132 | 先天性核上性球麻痺 | 0 | 182 | アペール症候群 | 0 |
| 133 | メビウス症候群 | 0 | 183 | ファイファー症候群 | 0 |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | 0 | 184 | アントレー・ビクスラー症候群 | 0 |
| 135 | アイカルディ症候群 | 0 | 185 | コフィン・シリス症候群 | 0 |
| 136 | 片側巨脳症 | 0 | 186 | ロスムンド・トムソン症候群 | 0 |
| 137 | 限局性皮質異形成 | 0 | 187 | 歌舞伎症候群 | 0 |
| 138 | 神経細胞移動異常症 | 0 | 188 | 多脾症候群 | 0 |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症 | 0 | 189 | 無脾症候群 | 0 |
| 140 | ドラベ症候群 | 0 | 190 | 鰓耳腎症候群 | 0 |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | 0 | 191 | ウェルナー症候群 | 0 |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん | 0 | 192 | コケイン症候群 | 0 |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | 0 | 193 | ブラダー・ウィリ症候群 | 1 |
| 144 | レノックス・ガスター症候群 | 0 | 194 | ソトス症候群 | 1 |
| 145 | ウエスト症候群 | 0 | 195 | ヌーナン症候群 | 0 |
| 146 | 大田原症候群 | 0 | 196 | ヤング・シンプソン症候群 | 0 |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症 | 0 | 197 | 1p36欠失症候群 | 0 |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | 0 | 198 | 4p欠失症候群 | 0 |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | 0 | 199 | 5p欠失症候群 | 0 |
| 150 | 環状20番染色体症候群 | 0 | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | 0 |
| 151 | ラスムッセン脳炎 | 0 | 201 | アンジェルマン症候群 | 0 |
| 152 | PCDH19関連症候群 | 0 | 202 | スミス・マギニス症候群 | 0 |
| 153 | 難治頻回部分発作重積型急性脳炎 | 0 | 203 | 22q11.2欠失症候群 | 0 |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 | 0 | 204 | エマヌエル症候群 | 0 |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群 | 0 | 205 | 脆弱X症候群関連疾患 | 0 |
| 156 | レット症候群 | 0 | 206 | 脆弱X症候群 | 0 |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群 | 0 | 207 | 総動脈幹遺残症 | 0 |
| 158 | 結節性硬化症 | 6 | 208 | 修正大血管転位症 | 0 |
| 159 | 色素性乾皮症 | 0 | 209 | 完全大血管転位症 | 0 |
| 160 | 先天性魚鱗癬 | 0 | 210 | 単心室症 | 0 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|------------------------------|-----|-----|----------------------------|-----|
| 211 | 左心低形成症候群 | 0 | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 0 | 260 | シトステロール血症 | 0 |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 0 | 261 | タンジール病 | 0 |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 0 | 262 | 原発性高カイロミクロン血症 | 0 |
| 215 | ファロー四徴症 | 0 | 263 | 脳髄黄色腫症 | 1 |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 0 | 264 | 無βリポタンパク血症 | 0 |
| 217 | エプスタイン病 | 0 | 265 | 脂肪萎縮症 | 0 |
| 218 | アルポート症候群 | 0 | 266 | 家族性地中海熱 | 0 |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群 | 0 | 267 | 高IgD症候群 | 0 |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 0 | 268 | 中條・西村症候群 | 0 |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 0 | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 0 |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | 0 | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 0 |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 0 | 271 | 強直性脊椎炎 | 6 |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | 0 | 272 | 進行性骨化性線維異形成症 | 0 |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | 0 | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | 0 |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | 0 | 274 | 骨形成不全症 | 0 |
| 227 | オスラー病 | 0 | 275 | タナトフォリック骨異形成症 | 0 |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | 0 | 276 | 軟骨無形成症 | 0 |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | 0 | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 0 |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | 0 | 278 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | 0 |
| 231 | α1-アンチトリプシン欠乏症 | 0 | 279 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 0 |
| 232 | カーニー複合 | 0 | 280 | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | 0 |
| 233 | ウォルフラム症候群 | 0 | 281 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 0 |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) | 0 | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血 | 0 |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 0 | 283 | 後天性赤芽球癆 | 0 |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 0 | 284 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 0 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | 0 | 285 | ファンコニ貧血 | 0 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 0 | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 0 |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | 0 | 287 | エプスタイン症候群 | 0 |
| 240 | フェニルケトン尿症 | 2 | 288 | 自己免疫性出血病XIII | 0 |
| 241 | 高チロシン血症1型 | 0 | 289 | クロンカイト・カナダ症候群 | 0 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | 0 | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | 0 |
| 243 | 高チロシン血症3型 | 0 | 291 | ヒルシユスブルグ病(全結腸型又は小腸) | 0 |
| 244 | メープルシロップ尿症 | 0 | 292 | 総排泄腔外反症 | 0 |
| 245 | プロピオン酸血症 | 0 | 293 | 総排泄腔遺残 | 0 |
| 246 | メチルマロン酸血症 | 0 | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア | 0 |
| 247 | イソ吉草酸血症 | 0 | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫 | 0 |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症 | 0 | 296 | 胆道閉鎖症 | 1 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | 0 | 297 | アラジール症候群 | 0 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | 0 | 298 | 遺伝性睦炎 | 0 |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | 0 | 299 | 嚢胞性線維症 | 0 |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | 0 | 300 | IgG4関連疾患 | 3 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | 0 | 301 | 黄斑ジストロフィー | 0 |
| 254 | ポルフィリン症 | 0 | 302 | レーベル遺伝性視神経症 | 0 |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | 0 | 303 | アッシャー症候群 | 0 |
| 256 | 筋型糖原病 | 0 | 304 | 若年発症型両側性感音難聴 | 0 |
| 257 | 肝型糖原病 | 0 | 305 | 遅発性内リンパ水腫 | 0 |
| 258 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 | 306 | 好酸球性副鼻腔炎 | 1 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------------|-----|-----|-------------------------------|-----|
| 307 | カナバン病 | 0 | 319 | セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症 | 0 |
| 308 | 進行性白質脳症 | 0 | 320 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症 | 0 |
| 309 | 進行性ミオクローヌスてんかん | 0 | 321 | 非ケトーシス型高グリシン血症 | 0 |
| 310 | 先天異常症候群 | 0 | 322 | β -ケトチオラーゼ欠損症 | 0 |
| 311 | 先天性三尖弁狭窄症 | 0 | 323 | 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 | 0 |
| 312 | 先天性僧帽弁狭窄症 | 0 | 324 | メチルグルタコン酸尿症 | 0 |
| 313 | 先天性肺静脈狭窄症 | 0 | 325 | 遺伝性自己炎症疾患 | 0 |
| 314 | 左肺動脈右肺動脈起始症 | 0 | 326 | 大理石骨病 | 0 |
| 315 | ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症 | 0 | 327 | 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。) | 0 |
| 316 | カルニチン回路異常症 | 0 | 328 | 前眼部形成異常 | 0 |
| 317 | 三頭酵素欠損症 | 0 | 329 | 無虹彩症 | 0 |
| 318 | シトリン欠損症 | 1 | 330 | 先天性気管狭窄症 | 0 |

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---------------------|------------------|
| 地域歯科診療支援病院歯科初診料 | 退院支援加算1 |
| 歯科外来診療環境体制加算 | 退院支援加算3 |
| 歯科診療特別対応連携加算 | 地域連携診療計画加算 |
| 特定機能病院入院基本料(一般病棟) | 精神疾患診療体制加算 |
| 特定機能病院入院基本料(精神病棟) | 精神科急性期医師配置加算 |
| 超急性期脳卒中加算 | 地域歯科診療支援病院入院加算 |
| 診療録管理体制加算2 | 特定集中治療室管理料1 |
| 医師事務作業補助体制加算1 | ハイケアユニット入院医療管理料1 |
| 急性期看護補助体制加算(25対1) | 新生児特定集中治療室管理料1 |
| 看護職員夜間配置加算16対1 | 新生児治療回復室入院医療管理料 |
| 看護補助加算2(精神病棟)(50:1) | 小児入院医療管理料2 |
| 療養環境加算 | 短期滞在手術等基本料2 |
| 重症者等療養環境特別加算 | データ提出加算 |
| 無菌治療室管理加算1 | プレイルーム加算 |
| 無菌治療室管理加算2 | 感染防止対策地域連携加算 |
| 緩和ケア診療加算 | |
| 精神科身体合併症管理加算 | |
| 精神科リエゾンチーム加算 | |
| 摂食障害入院医療管理加算 | |
| 医療安全対策加算1 | |
| 感染防止対策加算1 | |
| 患者サポート体制充実加算 | |
| 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | |
| ハイリスク妊娠管理加算 | |
| ハイリスク分娩管理加算 | |
| 病棟薬剤業務実施加算1 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-----------------------|--|
| 喘息治療管理料 | 薬剤管理指導料 |
| 糖尿病合併症管理料 | 医療機器安全管理料 1 |
| がん性疼痛緩和指導管理料 | 医療機器安全管理料 2 |
| がん患者指導管理料 1 | 医療機器安全管理料 (歯科) |
| がん患者指導管理料 2 | 歯科治療総合医療管理料 (I) 及び (II) |
| がん患者指導管理料 3 | 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 |
| 外来緩和ケア管理料 | 遺伝学的検査 |
| 移植後患者指導管理料 (臓器移植後) | HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定) |
| 移植後患者指導管理料 (造血幹細胞移植後) | 検体検査管理加算 (IV) |
| 糖尿病透析予防指導管理料 | 遺伝カウンセリング加算 |
| 外来放射線照射診療料 | 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 |
| ハイリスク妊産婦共同管理料 (I) | 胎児心エコー法 |
| がん治療連携計画策定料 | 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| 肝炎インターフェロン治療計画料 | 経皮的中隔心筋焼灼術 |
| ヘッドアップティルト試験 | 左心室ペースメーカー移植術及び左心室ペースメーカー交換術 |
| 長期継続頭蓋内脳波検査 | 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| 脳磁図 | 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 |
| 神経学的検査 | 両心室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両心室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術 |
| 補聴器適合検査 | 大動脈バルーンポンピング法 (IABP法) |
| コンタクトレンズ検査料 1 | 補助人工心臓 |
| 小児食物アレルギー負荷検査 | 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 |
| 内服・点滴誘発試験 | 胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上) を伴うものに限る。) |
| 画像診断管理加算 2 | 腹腔鏡下肝切除術 (部分切除及び外側区域切除) |
| ポジトロン断層撮影 | 腹腔鏡下降体尾部腫瘍切除術 |

| | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 | 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| CT撮影及びMRI撮影 | 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） |
| 冠動脈CT撮影加算 | 同種死体腎移植術 |
| 心臓MRI撮影加算 | 生体腎移植術 |
| 乳房MRI撮影加算 | 膀胱水圧拡張術 |
| 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 | 人工尿道括約筋植込・置換術 |
| 外来化学療法加算1 | 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） |
| 無菌製剤処理料 | 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。） |
| 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） | 輸血管理料Ⅰ |
| 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） | 貯血式自己血輸血管理体制加算 |
| 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） | 自己生体組織接着剤作成術 |
| 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） | 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| がん患者リハビリテーション料 | 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 |
| 集団コミュニケーション療法料 | 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 |
| 歯科口腔リハビリテーション料2 | 歯根端切除手術の注3 |
| 認知療法・認知行動療法1 | 麻酔管理料（Ⅰ） |
| 認知療法・認知行動療法2 | 麻酔管理料（Ⅱ） |
| 医療保護入院等診療料 | 放射線治療専任加算 |
| I ¹³¹ の局所注入（甲状腺に対するもの） | 外来放射線治療加算 |
| I ¹³¹ の局所注入（副甲状腺に対するもの） | 高エネルギー放射線治療 |
| CAD/CAM冠 | 1回線量増加加算 |
| 歯科技工加算1及び2 | 強度変調放射線治療（IMRT） |
| 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 | 画像誘導放射線治療加算（IGRT） |
| 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。） | 体外照射呼吸性移動対策加算 |
| 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。） | 定位放射線治療 |
| 脳腫瘍覚醒下マッピング加算 | 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 |
| 頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。） | 画像誘導密封小線源治療加算 |
| 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術 | 保険医療機関間の連携による病理診断 |
| 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製 |
| 羊膜移植術 | テレパソロジーによる術中迅速細胞診 |
| 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） | 病理診断管理加算2 |
| 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの） | 口腔病理診断管理加算2 |

| | |
|---|---|
| 網膜再建術 | クラウン・ブリッジ維持管理料 |
| 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 | 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）（乳がんセンチネルリンパ節加算2） |
| 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術） | ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） |
| 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。） | 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） |
| | 経カテーテル大動脈弁置換術 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|-------|---------------|-----------|----------|---------|
| | | | | 補委 | 元 |
| 肝病理組織抽出検体を用いたピロシーケンシングによる胆汁うっ滞性肝疾患の病態解析 | 上野 義之 | 内科学第二講座 | 4,230,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ヒト生体から直接得られる多能性幹細胞Muse細胞を用いた内耳再生治療の多面的解析 | 欠畑 誠治 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 | 4,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 老化とミトコンドリア機能異常におけるHMGB1の役割 | 久保田 功 | 内科学第一講座 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腎疾患におけるmicroRNAの発現調節機序とバイオマーカーとしての有用性の検討 | 今田 恒夫 | 内科学第一講座 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| メラニン合成機構に関わる新規分子の解明 | 川口 雅一 | 皮膚科 | 700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| マクロファージの自然免疫応答能から探る人工関節インプラント感染症 | 高木 理彰 | 整形外科科学講座 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 急性炎症の初期免疫応答におけるNFκB経路と生体侵襲の評価 | 川前 金幸 | 麻酔科学講座 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ファーマコゲノミクスとトランスクリプトミクスによる腎癌薬物療法の新治療体系の確立 | 土谷 順彦 | 腎泌尿器外科学講座 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 進行性腎細胞癌患者の予後因子および治療標的となるMDSCs特異的マーカーの探索 | 加藤 智幸 | 腎泌尿器外科学講座 | 900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 子宮体部漿液性腺癌の抗癌剤耐性克服にむけたメタボローム解析に基づく新治療戦略 | 永瀬 智 | 産科婦人科学講座 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 樹状細胞を中心とした硝子体内炎症惹起制御機能と糖尿病網膜症進展の分子病態 | 山下 英俊 | 眼科学講座 | 700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| レム睡眠行動異常のレビーおよびアミロイドの拡がりを画像で捉える | 小林 良太 | 精神医学講座 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

小計 12

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------|--------------|-----------|----------|---------|
| | | | | 補委 | 元 |
| 肝幹細胞由来の細胞外小胞を用いた新たな急性肝不全治療の研究 | 芳賀 弘明 | 第二内科 | 1,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 大動脈弁狭窄症の発症抑制を目指したmicroRNA解析 | 渡邊 哲 | 第一内科 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 骨髄機能不全症候群の白血病化関連遺伝子検索とその病態寄与の解明 | 三井 哲夫 | 小児科学講座 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 本邦における単状分節性糸球体硬化症の疫学と病態解明 | 橋本 多恵子 | 小児科 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 化学物質誘発性尋常性白斑の発症に関与する感受性遺伝子の同定と機能解析 | 鈴木 民夫 | 皮膚科学講座 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| オピオイド・オキシトシン受容体の遺伝型と養育態度が衝動性・情動欠如に与える影響 | 大谷 浩一 | 精神医学講座 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 次世代間葉系幹細胞の作成と機能制御 | 田嶋 克史 | 第三内科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ERK5を標的とする新規腎細胞癌治療戦略の開発 | 長岡 明 | 腎泌尿器外科学講座 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 転写補助因子Ncoa6のエストロゲン感受性調節を介した子宮体癌発症抑制機序の解明 | 川越 淳 | 産科婦人科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| マルチオミックス技術を用いた口腔癌・前がん病変唾液バイオマーカーの探索的研究 | 飯野 光喜 | 歯科口腔・形成外科学講座 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 低酸素環境が神経障害性疼痛に与える影響についての実験的アプローチ | 秋元 亮 | 麻酔科学講座 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 喫煙誘導実験肺気腫におけるケモカインCCL1の役割の探究 | 木村 友美 | 第一内科 | 1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 内耳におけるリン脂質代謝酵素と小胞体ストレス応答の解明 | 松井 祐興 | 耳鼻咽喉科 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腎癌におけるFGFR4の働きと新規治療戦略の開発 | 櫻井 俊彦 | 腎泌尿器外科学講座 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興 |

L29:M56会

小計 14

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|-------|----------|-----------|----------|---------|
| てんかん性脳症に対する全エクソン解析を用いた早期診断システムの構築と治療法開発 | 中村 和幸 | 小児科 | 1,300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 遺伝性色素異常症患者の網羅的原因遺伝子探索およびその機能解析 | 岡村 賢 | 皮膚科 | 1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| ブドウ糖/アミノ酸代謝比画像による脳腫瘍の治療予後評価に関する研究 | 鹿戸 将史 | 放射線医学講座 | 700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| LDLによる腎癌ソラフェニブ耐性の獲得機序の解明と新規マーカー、薬剤の開発 | 内藤 整 | 泌尿器科 | 1,300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| ヒストンメチル化制御を介した卵巣がん新規治療法の確立を目指して | 榑 宏論 | 産科婦人科 | 1,700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| D-アミノ酸発現機序と機能的役割の解明および慢性炎症病態との関連 | 鈴木 祐輔 | 耳鼻咽喉科 | 1,300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 先天性中枢性低換気症候群の病態解明:治療成績の改善を目指して | 佐々木綾子 | 小児科学講座 | 1,400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 尋常性白斑の病態へのHLA-Aの関与とその発現調節機構の解明 | 林昌浩 | 皮膚科 | 1,300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 養育態度と人格特徴がBDNF遺伝子のエピジェネティックス機構に与える影響 | 鈴木昭仁 | 精神科 | 500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| もやもや病感受性遺伝子RNF213変異による脳血管疾患発症の遺伝・環境要因の解明 | 小久保安昭 | 脳神経外科学講座 | 1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 膠芽腫の再発形式の予測に有用な分子マーカーの同定 | 園田順彦 | 脳神経外科学講座 | 900,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 関節リウマチの発症早期と薬剤耐性期における自然免疫系の検討 | 高窪祐弥 | 整形外科 | 1,700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 生体親和性多孔性膜(ハニカム膜)による卵巣癌の新規治療と診断法の開発 | 太田剛 | 産科婦人科 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------|---------------|-----------|----------|---------|
| 自己幹細胞誘導を用いた中耳粘膜再生による中耳真珠腫根治治療へ向けての研究 | 伊藤 吏 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 | 1,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 亜鉛徐放性チタンスキヤフォールドと歯髄幹細胞による薬剤関連顎骨壊死治療法の開発 | 遊佐和之 | 歯科口腔・形成外科 | 1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 唾液の多層オミックス解析による口腔癌・口腔前癌病変スクリーニング法の確立 | 石川 恵生 | 歯科口腔・形成外科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 大型動物を用いた胆泥閉塞に対するPMEAコーティング胆管ステントの有効性評価 | 石澤 哲也 | 第二内科 | 1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 慢性肝疾患における肝内自律神経の変化と機能の解明 | 水野 恵 | 第二内科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 腸内細菌叢の機能と呼応する上皮のシングルセル解析による肥満関連大腸発癌機序の解明 | 佐々木 悠 | 内科学第二講座 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肥満による大腸がんの発育進展機序の解明—chemerinは鍵因子となりうるか— | 八木 周 | 内科学第二講座 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 左房容積係数と血栓形成マーカーによる左心耳機能評価と脳梗塞予知 | 和根崎 真大 | 第一内科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| メタボローム解析による卵巣癌新規治療法の探索 | 清野 学 | 産科婦人科学講座 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 子宮体部漿液性癌におけるレドックス制御機構と薬剤抵抗性の関連 | 小幡 美由紀 | 産科婦人科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 蝸牛の新規3次元培養法の確立と内耳再生—ROCK阻害薬によるシナプス再形成— | 小泉 優 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 成長因子を用いた低侵襲で効果の高い顔面神経麻痺救済治療の開発 | 古川 孝俊 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 一酸化窒素ガスの抗炎症作用に着目した、脳蘇生後二次障害抑制による脳神経保護治療 | 杉浦 明日美 | 麻酔科学講座 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|---------------------|-----------|----------|------------|
| | | | | 補 | 委 |
| 有毛細胞と聴神経繊維のシナプスをターゲットとする新規内耳再生治療への挑戦 | 欠畑 誠治 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 | 1,800,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| Novel mechanisms of graft-versus-host disease (GVHD) and graft-versus-tumor (GVT) effect after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation (allo-HSCT) | 東梅 友美 | 内科学第三講座(糖尿病・内分泌代謝学) | 1,100,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 「病は気から」の検証 -神経内分泌系による泌尿器がん進展に関する修飾機構の解明 | 伊藤 裕美 | 腎泌尿器外科学講座 | 570,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 美白成分の安全性評価法の策定に関する研究 | 鈴木 民夫 | 皮膚科 | 350,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究 | 鈴木 民夫 | 皮膚科 | 450,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 先天性中枢性低換気症候群(CCHS)の診断基準・ガイドライン・重症度分類の確立 | 佐々木 綾子 | 小児科 | 120,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 原発性高脂血症に関する調査研究 | 小山 信吾 | 第三内科 | 250,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究 | 高木 理彰 | 整形外科 | 100,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究 | 高木 理彰 | 整形外科 | 80,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究 | 山下 英俊 | 眼科 | 8,431,000 | 補 | 厚生労働省 |
| 慢性肝疾患の組織病態進展機構の解析および血清組織糖鎖の網羅的探索による予後予測マーカーの構築 | 上野 義之 | 第二内科 | 2,000,000 | 補 | 日本医療研究開発機構 |
| 腫瘍性を持たない多能性幹細胞Muse細胞を用いた新たな肝再生治療 | 上野 義之 | 第二内科 | 7,700,000 | 補 | 日本医療研究開発機構 |
| 山形大学コホート研究における住民基盤検体を用いたウイルス因子の解析 | 上野 義之 | 第二内科 | 2,000,000 | 補 | 日本医療研究開発機構 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|-------|--------|------------|----------|------------|
| | | | | 補助元 | 委託元 |
| 代謝疾患克服のための臓器間ネットワーク機構の統合的機能解明 | 上野 義之 | 第二内科 | 6,500,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験:JCOG1411 | 石澤 賢一 | 第三内科 | 19,760,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するデモノロミドを用いた標準治療確立に関する研究 | 園田 順彦 | 脳神経外科 | 4,160,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 希少・難治小児脳幹部神経膠腫に対する塩酸ニムスチン局所投薬による新規治療法開発:多施設共同医師主導治験 | 園田 順彦 | 脳神経外科 | 700,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 新たな根治的粒子線治療を実現する吸収性スペーサーの適応拡大と実用化研究 | 根本 建二 | 放射線診断科 | 500,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 粒子線治療のリアルタイム線量モニタの開発 | 根本 建二 | 放射線診断科 | 910,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 難治・再発リンパ芽球性リンパ腫の治療法の確立 | 三井 哲夫 | 小児科 | 300,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 新生児マススクリーニング対象疾患等の診療に直結するエビデンス創出研究 | 沼倉 周彦 | 小児科 | 390,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| リコンビナントヒトIGF-1(メカセルミン)の突発性難聴への適応拡大のための医師主導型治験 | 欠畑 誠治 | 耳鼻咽喉頭科 | 91,000 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| 網膜疾患に関するデータ収集・解析案の作成 | 山下 英俊 | 眼科 | 1,961,107 | 補 ○委 | 日本医療研究開発機構 |
| | | | | 補 ○委 | |
| | | | | 補 ○委 | |

小計 10

計 75

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|--|---------------------|
| 1 | Nemoto T, Shibata Y, Inoue S, et al. | 第一内科 | MafB silencing in macrophages does not influence the initiation and growth of lung cancer induced by urethane. | EXCLI J.2017 Jun; 16: 914-920 | Original Article |
| 2 | Watanabe T, Ando K, Daidoji H, et al. | 第一内科 | A randomized controlled trial of eicosapentaenoic acid in patients with coronary heart disease on statins. | J Cardiol.2017 Dec; 70(6): 537-544 | Original Article |
| 3 | Yokoyama M, Watanabe T, Otaki Y, et al. | 第一内科 | Impact of Objective Malnutrition Status on the Clinical Outcomes in Patients With Peripheral Artery Disease Following Endovascular Therapy. | Circ J.2018 Feb; 82(3): 847-856 | Original Article |
| 4 | Takahashi T, Watanabe T, Shishido T, et al. | 第一内科 | The impact of non-alcoholic fatty liver disease fibrosis score on cardiac prognosis in patients with chronic heart failure. Heart Vessels. | Heart Vessels.2017 Dec; | Original Article |
| 5 | Otaki Y, Watanabe T, Kubota I. | 第一内科 | Heart-type fatty acid-binding protein in cardiovascular disease: A systemic review | Clinica Chimica Acta.2017 Sep; 474:44-53 | Review |
| 6 | Kon S, Konta T, Kamei K, et al. | 第一内科 | THE ASSOCIATION BETWEEN RENAL PARAMETERS AND URINARY MICRORNAS IN PATIENTS WITH IGA NEPHROPATHY | Nephrol Dial Transplant (2017).2017 May; 32(Suppl_3)III542 | Others |
| 7 | Yokoyama M | 第一内科 | Platelet to lymphocyte ratio is a feasible predictor for poor outcome in patients with peripheral artery disease after endovascular therapy | 第49回日本動脈硬化学会 総会・学術集会抄録 集.2017 7; 33 | Others |
| 8 | Watanabe T, Narumi T, Kubota I | 第一内科 | Impact of sarcopenia on the prognosis in heart failure | 第21回日本心不全学会学 術集会プログラム・抄録 集.2017 10; 200 | Others |
| 9 | Hashimoto N, Arimoto T, Otaki Y, et al. | 第一内科 | Clinical benefit of simultaneous pulmonary vein isolation and percutaneous transvenous mitral commissurotomy in patients with mitral stenosis and atrial fibrillation | 第21回日本心不全学会学 術集会プログラム・抄録 集.2017 10; 315 | Others |

小計 9

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|--|---|--------|
| 10 | Kumagai Y, Arimoto T, Kutsuzawa D, et al. | 第一内科 | The usefulness of serial 18F-FDG PET/CT for assessing therapeutic response in cardiac sarcoidosis with ventricular tachycardia | 第21回日本心不全学会学術集会プログラム・抄録集.2017 10; 352 | Others |
| 11 | Watanabe K, Shishido T, Watanabe T, et al. | 第一内科 | Plasma xanthine oxidoreductase activity could predict adverse clinical outcomes in patients with heart failure with preserved ejection fraction | 第21回日本心不全学会学術集会プログラム・抄録集.2017 10; 383 | Others |
| 12 | Sugai T, Shishido T, Watanabe K, et al. | 第一内科 | Advanced lung inflammation index(ALI) is a feasible prognostic marker in patients with heart failure | 第21回日本心不全学会学術集会プログラム・抄録集.2017 10; 419 | Others |
| 13 | Otaki Y, Watanabe T, Yokoyama M, et al. | 第一内科 | Xanthine oxidoreductase plays a key role in cardio-hepatic vicious cycle in patients with heart failure. | 第21回日本心不全学会学術集会プログラム・抄録集.2017 10; 430 | Others |
| 14 | Takahashi T, Shishido T, Watanabe K, et al. | 第一内科 | The impact of Pulse Pressure on Silent and Ongoing Myocardial Damage in the General population | 第21回日本心不全学会学術集会プログラム・抄録集.2017 10; 468 | Others |
| 15 | Machida H, Huruyama K, Minegishi Y, et al. | 第一内科 | Association of cystatin C-based estimated glomerular filtration rate (eGFR) with prognosis in patients with COPD exacerbation | ERS International Congress 2017 online programme, 2017 Sep; web抄録 | Others |
| 16 | Sato K, Furuyama K, Minegishi Y, et al. | 第一内科 | Effect of iron deficiency on airway inflammation and pulmonary function in mice exposed to cigarette smoke | ERS International Congress 2017 online programme, 2017 Sep; web抄録 | Others |
| 17 | Takahashi T, Shishido T, Watanabe K, et al. | 第一内科 | Cardiac Nuclear High-Mobility Group Box 1 Attenuates Angiotensin II Induced Pathological Cardiac Hypertrophy by Inhibiting Dna Damage Response Pathway | Circulation.2017 Nov; 136 Suppl1 A17798 | Others |
| 18 | Sugai T, Watanabe T, Yokoyama M, et al. | 第一内科 | Intramuscular Fatty Infiltration Can Predict Adverse Clinical Outcomes in Patients With Peripheral Artery Disease | Circulation.2017 Nov; 136 Suppl1 A14755 | Others |
| 19 | Toshima T, Watanabe T, Shishido T, et al. | 第一内科 | Inhibition of MicroRNA-34a Attenuates Osteogenic Differentiation via Inhibiting Notch1 Signal in Aortic Valve Interstitial Cells | Circulation.2017 Nov; 136 Suppl1 A15010 | Others |
| 20 | Kumagai Y, Arimoto T, Kutsuzawa D, et al. | 第一内科 | Estimation of Biatrial Volume Using Cardiac Magnetic Resonance Imaging Predicts Atrial Fibrillation Recurrence After Pulmonary Vein Isolation | Circulation.2017 Nov; 136 Suppl1 A20186 | Others |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|---|---|------------------|
| 21 | Watanabe K, Shishido T, Watanabe T, et al. | 第一内科 | Increased Plasma Xanthine Oxidoreductase Activity is Associated With Coronary Artery Spasm | Circulation.2017 Nov; 136 Suppl1 A15295 | Others |
| 22 | Haga H, Yan IK, Takahashi K, et al. | 第二内科 | Extracellular Vesicles from Bone Marrow-Derived Mesenchymal Stem Cells Improve Survival from Lethal Hepatic Failure in Mice. | Stem Cells Transl Med. 2017 Apr;6(4):1262-1272 | Original Article |
| 23 | Sasaki Y, Dehnad A, Fish S, et al. | 第二内科 | NOX4 Regulates CCR2 and CCL2 mRNA Stability in Alcoholic Liver Disease. | Scientific Reports. 2017 Apr 6;7:46144 | Original Article |
| 24 | Ito M, Makino N, Matsuda A, et al. | 第二内科 | High Glucose Accelerates Cell Proliferation and Increases the Secretion and mRNA Expression of Osteopontin in Human Pancreatic Duct Epithelial Cells. | Int J Mol Sci. 2017 Apr 12;18(4) | Original Article |
| 25 | Nishise S, Takeda Y, Abe Y, et al. | 第二内科 | Effect of Temperature on Granulocyte and Monocyte Adsorption to Cellulose Acetate Beads. | Ther Apher Dial. 2017 Jun;21(3):248-254 | Original Article |
| 26 | Haga H, Yan IK, Borrelli DA, et al. | 第二内科 | Extracellular Vesicles from Bone Marrow-Derived Mesenchymal Stem Cells protect against murine hepatic ischemia/reperfusion injury. | Liver Transpl. 2017 Jun; 23(6): 791-803 | Original Article |
| 27 | Tomita K, Kohli R, MacLaurin BL, et al. | 第二内科 | Mixed-lineage kinase 3 pharmacological inhibition attenuates murine nonalcoholic steatohepatitis. | JCI Insight. 2017 Aug 3; 2(15): e94488 | Original Article |
| 28 | Tomita K, Kabashima A, Freeman BL, et al. | 第二内科 | Mixed Lineage Kinase 3 Medates the Induction of CXCL10 by a STAT1- Dependent Mechanism During Hepatocyte Lipotoxicity. | J Cell Biochem. 2017 Oct; 118(10): 3249-3259 | Original Article |
| 29 | Sasaki Y, Abe Y, Takeda H, et al. | 第二内科 | Impaired Secretion of Glucagon-Like Peptide 1 in Patients with Colorectal Adenoma after an Oral Glucose Load. | Digestion. 2018; 97(4): 324-332 | Original Article |
| 30 | Abe Y, Sasaki Y, Yagi M, et al. | 第二内科 | Diagnosis and treatment of eosinophilic esophagitis in clinical practice. | Clin J Gastroenterol. 2017 Apr; 10(2): 87-102 | Original Article |
| 31 | Arawaka S, Sato H, Sasaki A, et al. | 第三内科 | Mechanisms underlying extensive Ser129-phosphorylation in α - synuclein aggregates. | Acta Neuropathol Commun. 2017 Jun 15; 5(1):48 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|--|--|------------------|
| 32 | Koyama S, Sato H, Kobayashi R, et al. | 第三内科 | Clinical and radiological diversity in genetically confirmed primary familial brain calcification. | Sci Rep. 2017 Sep 21; 7(1):12046 | Original Article |
| 33 | Inokura K, Fujiwara T, Saito K, et al. | 第三内科 | Impact of TET2 deficiency on iron metabolism in erythroblasts. | Exp Hematol.2017 May; 49:56-67 | Original Article |
| 34 | Toubai T, Rossi C, Oravec- Wilson K, et al. | 第三内科 | Siglec-G represses DAMP-mediated effects on T cells. | JCI Insight. 2017 Jul;2 (14):e92293 | Original Article |
| 35 | Toubai T, Rossi C, Oravec- Wilson K, et al. | 第三内科 | IAPs protect host target tissues from graft-versus-host disease in mice. | Blood Advances. 2017 Aug 16;1(19):1517-1532 | Original Article |
| 36 | Kobayashi R, Tanaka F, Nakazawa A, et al. | 小児科 | Lymphoma Committee and Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group. Pediatric follicular lymphoma in Japan. | Int J Hematol. 2017 Jun;105(6):849-853 | Original Article |
| 37 | Fukano R, Sunami S, Sekimizu M, et al. | 小児科 | Clinical Features and Prognosis According to Immunophenotypic Subtypes Including the Early T-Cell Precursor Subtype of T- Lymphoblastic Lymphoma in the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group ALB-NHL03 Study. | J Pediatr Hematol Oncol. 2018 Jan;40(1):e34-e37 | Original Article |
| 38 | Sakamoto K, Imamura T, Kihira K, et al. | 小児科 | Low incidence of osteonecrosis in childhood acute lymphoblastic leukemia treated with ALL-97 and ALL-02 study of Japan Association of Childhood Leukemia Study Group. | J Clin Oncol. 2018 Mar 20;36(9):900-907 | Original Article |
| 39 | Shiina Y, Inai K Takahashi T, et al. | 小児科 | Vortex flow in the Right Atrium Surrogates Supraventricular Arrhythmia and Thrombus After Atriopulmonary Connection-Type Fontan Operation: Vortex Flow Analysis Using Conventional Cine Magnetic Resonance Imaging. | Pediatric Cardiology. 2018 Feb;39(2):375-383 | Original Article |
| 40 | Abiko M, Inai K, Shimada E, et al. | 小児科 | The prognostic value of high sensitivity cardiac troponin T in patients with congenital heart disease. | J Cardiol. 2018 Apr;71(4):389-393. | Original Article |
| 41 | Kanno M, Onoda T, Meguro T, et al. | 小児科 | Eltrombopag with i.v.immunoglobulin for safe splenectomy in refractory immune thrombocytopenia. | Pediatr Int. 2018 Feb;60(2):191-192. | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|---|--|------------------|
| 42 | Takahashi N, Suzuki A, Matsumoto Y, et al. | 精神科 | Perceived parental affectionless control is associated with high neuroticism. | Neuropsychiatr Dis Treat. 2017 Apr 18; 13: 1111-1114 | Original Article |
| 43 | Suzuki A, Matsumoto Y, Enokido M, et al. | 精神科 | Relationship between interpersonal sensitivity and leukocyte telomere length. | BMC Med Genet. 2017 Oct 10; 18: 112 | Original Article |
| 44 | Otani K, Suzuki A, Matsumoto Y, et al. | 精神科 | Relationship of negative and positive core beliefs about the self with dysfunctional attitudes in three aspects of life. | Neuropsychiatr Dis Treat. 2017 Oct 12; 13: 2585-2588 | Original Article |
| 45 | Kobayashi R, Matsumoto Y, Hayashi H, et al. | 精神科 | Neuroleptic malignant syndrome following quetiapine treatment in a patient with dementia with Lewy bodies. | Asian J Psychiatr. 2017 Dec; 30: 173-174 | Original Article |
| 46 | Otani K. Suzuki A. Matsumoto Y. et al. | 精神科 | Marked differences in core beliefs about self and others, between sociotropy and autonomy: personality vulnerabilities in the cognitive model of depression. | Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Mar 27; 14: 863-866 | Original Article |
| 47 | Otani K. Suzuki A. Matsumoto Y. et al. | 精神科 | Close relation of interpersonal sensitivity with negative core beliefs about the self, the central construct of cognitive vulnerability to depression. | Psychiatry Res. 2018 May; 263: 162-165 | Original Article |
| 48 | Kawaguchi M, Suzuki T | 皮膚科学 | Dermoscopy is useful for the diagnosis of milia-like idiopathic calcinosis cutis. | Australas J Dermatol. 2018 Feb; 59(1): 63-64 | Letter |
| 49 | Kawaguchi M, Murata I, Suzuki T | 皮膚科学 | Dermoscopic features of mucoepidermoid carcinoma of the lip. | J Dermatol. 2017 Oct; 44(10): 260-261 | Letter |
| 50 | Hayashi M, Yaguchi Y, Okamura K, et al. | 皮膚科学 | A case of extensive burn without sepsis showing high level of plasma presepsin(SCD14-ST) | Burns open 1. 2017 July; 33-36 | Case report |
| 51 | Okamura K, Abe Y, Araki Y, et al. | 皮膚科学 | Characterization of melanosomes and melanin in Japanese patients with Hermansky-Pudlak syndrome types 1, 4, 6, and 9. | Pigment Cell Melanoma Res. 2018 Mar; 31(2): 267-276 | Original Article |
| 52 | Kanoto M, Kirii K, Hiraka T, et al. | 放射線科 | Correlation between hypoxic area in primary brain tumors and WHO grade: differentiation from malignancy using 18F-fluoromisonidazole positron emission tomography | Acta Radiol. 2018 Feb; 59(2): 229-235 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|--|---|------------------|
| 53 | Sakurai K, Kanoto M, Nakagawa M, et al. | 放射線科 | Dinosaur Tail Sign: A Useful Spinal MRI Finding Indicative of Cerebrospinal Fluid Leakage. | Headache. 2017 Jun;57(6):917-925 | Original Article |
| 54 | Koto M, Demizu Y, Saitoh JI, et al. | 放射線治療科 | Japan Carbon-Ion Radiation Oncology Study Group: Multicenter Study of Carbon-Ion Radiation Therapy for Mucosal Melanoma of the Head and Neck: Subanalysis of the Japan Carbon-Ion Radiation Oncology Study Group (J-CROS) Study (1402 HN). | Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2017 Apr 1;97(5):1054-1060 | Original Article |
| 55 | Kawashiro S, Mori S, Yamada S et al. | 放射線治療科 | Dose escalation study with respiratory-gated carbon-ion scanning radiotherapy using a simultaneous integrated boost for pancreatic cancer: simulation with four-dimensional computed tomography. | Br J Radiol. 2017 Apr;90(1072):20160790. | Original Article |
| 56 | Jingu K, Matsuo Y, Onishi H et al. | 放射線治療科 | Dose Escalation Improves Outcome in Stereotactic Body Radiotherapy for Pulmonary Oligometastases from Colorectal Cancer. | Anticancer Res. 2017 May;37(5):2709-2713. | Original Article |
| 57 | Shirai K, Koto M, Demizu Y et al. | 放射線治療科 | Multi-institutional retrospective study of mucoepidermoid carcinoma treated with carbon-ion radiotherapy. | Cancer Sci. 2017 Jul;108(7):1447-1451 | Original Article |
| 58 | Saitoh JI, Koto M, Demizu Y et al. | 放射線治療科 | Japan Carbon-Ion Radiation Oncology Study Group: A Multicenter Study of Carbon-Ion Radiation Therapy for Head and Neck Adenocarcinoma. | Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2017 Oct 1;99(2):442-449 | Original Article |
| 59 | Sadoyama S, Sekine A, Satoh H et al. | 放射線治療科 | Isolated Brain Metastases as the First Relapse After the Curative Surgical Resection in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients With an EGFR Mutation. | Clin Lung Cancer. 2018 Jan;19(1):e29-e36 | Original Article |
| 60 | Sato H, Yamada M, Harada M, et al. | 放射線治療科 | Effects of Goreisan on radiation enteritis in gynecological cancer. | Recent Progress of Kampo Medicine in Obstetrics and Gynecology .2017;(34):43-46 | Original Article |
| 61 | Matsuda Y, Furukawa T, Yachida S, et al. | 第一外科 | The Prevalence and Clinicopathological Characteristics of High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia: Autopsy Study Evaluating the Entire Pancreatic Parenchyma. | Pancreas. 2017 May/June;46(5):658-664. | Original Article |
| 62 | Yu S, Takasu N, Watanabe T, et al. | 第一外科 | Validation of the 2012 Fukuoka Consensus Guideline for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas From a Single Institution Experience. | Pancreas. 2017 Aug;46(7):936-942. | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|--|--|------------------|
| 63 | Hamasaki A, Uchida T, Kuroda Y et al. | 第二外科 | A Simple Shunt Tube Management Technique during Beating-Heart Coronary Artery Bypass Grafting. | 日本冠疾患学会雑誌. 2017 5; 23(4): 238-240 | Original Article |
| 64 | Oizumi H, Kato H, Endoh M et al. | 第二外科 | Swine model for training surgeons in minimally invasive anatomic lung segmentectomy. | J Vis Surg. 2017 May 25;3:72. | Original Article |
| 65 | Hamasaki A, Uchida T, Sadahiro M | 第二外科 | Simple and safe removal cation of the HEARTSTRING device | Eur J Cardiothorac Surg.2017 7; 53(1):282- 283 | Original Article |
| 66 | Endoh M, Oizumi H, Kato H et al | 第二外科 | Posterior approach to thoracoscopic pulmonary segmentectomy of the dorsal basal segment: A single- institute retrospective review. | J Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Oct;154(4):1432- 1439. | Original Article |
| 67 | Uchida T, Hamasaki A, Kuroda Y et al. | 第二外科 | Open aortic arch surgery following thoracic endovascular aortic repair with debranching | Italian Journal of Vascular and Endovascular Surgery. 2017 6; 24(2): 41-46 | Original Article |
| 68 | Uchida T, Hamasaki A, Sadahiro M | 第二外科 | A modified surgical approach for giant left coronary arterial aneurysm. | J Card Surg. 2017 Aug;32(8):489-491 | Original Article |
| 69 | Uchida T, Hamasaki A, Kuroda Y, | 第二外科 | Novel Surgical Technique for Coronary Fistulas With Proximal Origin. | Ann Thorac Surg. 2017 Sep;104(3):e261-e263. | Original Article |
| 70 | Uchida T, Hamasaki A, Yamashita A et al. | 第二外科 | Tracheal Compression Caused by a Hematoma After Redo Aortic Root Replacement. | Ann Thorac Surg. 2017 Oct;104(4):e319-e320. | Original Article |
| 71 | Kato H, Oizumi H, Suzuki J et al. | 第二外科 | Thoracoscopic anatomical lung segmentectomy using 3D computed tomography simulation without tumour markings for non-palpable and non-visualized small lung nodules. | Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2017 Sep 1;25(3):434-441. | Original Article |
| 72 | Kato H, Oizumi H, Suzuki J et al. | 第二外科 | Thoracoscopic wedge resection and segmentectomy for small-sized pulmonary nodules. | J Vis Surg. 2017 May 4;3:66 | Original Article |
| 73 | Kato H, Oizumi H, Suzuki J et al. | 第二外科 | Video-assisted thoracoscopic subsegmentectomy for small-sized pulmonary nodules. | J Vis Surg. 2017 Aug 21;3:105 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|---------------------------|--|--|------------------|
| 74 | Uchida T, Hamasaki A, Kuroda Y et al. | 第二外科 | Surgical repair of a celiac artery aneurysm using a sutureless proximal anastomosis device. | J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2017 Nov 2;3(4):221-224. | Original Article |
| 75 | Kato H, Oizumi H, Suzuki J et al. | 第二外科 | What is the most appropriate procedure for intraoperative localization of small pulmonary nodules? | J Thorac Dis. 2018 Feb;10(2):E155-E157. | Original Article |
| 76 | Uchida T, Hamasaki A, Sadahiro M. | 第二外科 | Intraoperative fluorescence-guided imaging for coronary artery fistula. | Eur J Cardiothorac Surg. 2018 Jan 1;53(1):290 | Case report |
| 77 | Kato H, Oizumi H, Suzuki J et al. | 第二外科 | Port-access thoracoscopic bisubsegmentectomy of right upper lobe posterior and anterior segments. | J Thorac Dis. 2017 Sep;9(9):3293-3295 | Case report |
| 78 | Hamada A, Oizumi H, Kato H et al. | 第二外科 | Thoracoscopic left S4a subsegmentectomy. | J Thorac Dis. 2017 Sep;9(9):3299-3301 | Case report |
| 79 | Takahashi A, Uchida T, Hamasaki A et al. | 第二外科 | Popliteal Artery Pseudoaneurysm Associated with Osteochondroma. | Ann Vasc Dis. 2017 Sep 25;10(3): 257-260 | Case report |
| 80 | Uchida T, Hamasaki A, Ohba E, et al. | 第二外科 | Life-threatening subdural hematoma after aortic valve replacement in a patient with Heyde syndrome: a case report. | J Cardiothorac Surg. 2017 Aug 8;12(1):65. | Case report |
| 81 | Uchida T, Hamasaki A, Kuroda Y, et al. | 第二外科 | Takotsubo Cardiomyopathy after Hybrid Repair of Thoracic and Thoracoabdominal Aortic Aneurysm | Journal of Vascular and Endovascular Surgery. 2017 4;2(2):11 | Case report |
| 82 | Kuroda Y, Uchida T, Hayashi J et al. | 第二外科 | An intra-aortic floating metastatic malignancy of unknown primary origin. | Eur J Cardiothorac Surg. 2017 Aug 29. | Case report |
| 83 | Suzuki J, Oizumi H, Kato H et al. | 第二外科 | Our novel procedure for thoracoscopic anatomical segmentectomy | Video-Assisted Thoracic Surgery.2017 4(オンライン);2(27) | Others |
| 84 | Ito M, Kuge A, Matsuda KI, et al. | 脳外 | The Likelihood of Remnant Nonfunctioning Pituitary Adenomas Shrinking Is Associated with the Lesion's Blood Supply Pattern. | World Neurosurg. 2017 Nov;107:137-141 | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|---------------------------|--|---|------------------|
| 85 | Harada M, Takahara M, Maruyama M, et al. | 整形外科 | Outcome of conservative treatment for Little League shoulder in young baseball players: factors related to incomplete return to baseball and recurrence of pain | J Shoulder Elbow Surg. 2018 Jan; 27(1): 1-9 | Original Article |
| 86 | Maruyama M, Satake H, Suzuki T, et al. | 整形外科 | Comparison of the effects osteochondral autograft trasplaantation with platelet-rich plasma or platelet-rich fibrin od osteochondral defects in a rabbit model. | Am J Sports Med. 2017 Dec; 45(14): 3280-3288 | Original Article |
| 87 | Maruyama M, Takahara M, Satake H | 整形外科 | Diagnosis and treatment of osteochondritis dissecans of the humeral captellum. | J Orthop Sci. 2018 Mar; 23(2): 213-219 | Original Article |
| 88 | Suzuki T, Takakubo Y, Oki H, et al. | 整形外科 | Immunohistochemical analysis of inflammatory rheumatoid synovial tissues using anti-human podoplanin monoclonal antibody panel. | Monoclon Antib Immunodiagn Immunother. 2018 Feb; 37(1): 12-19 | Original Article |
| 89 | Takakubo Y, Ohta D, Ishi M, et al. | 整形外科 | The Incidence of atypical femoral fractures in Patients with rheumatic disease. Yamagata prefectural committee of atypical femoral fractures(YamaCAFe)study. | Tohoku J Exp Med. 2017 Aug; 242: 327-334 | Original Article |
| 90 | Takakubo Y, Oki H, Naganuma Y,et al. | 整形外科 | Distribution of podoplanin in synovial tissues in rheumatoid arthritis patients using biologic or conventional disease-modifying anti-rheumatic drugs. | Curr Rheumatol Rev. 2017; 13(1): 72-78 | Original Article |
| 91 | Takano M, Hashimoto J, Tsuchida H, et al. | 整形外科 | The bone regeneration using bone marrow-derived mesenchymal stem call with recombinant human bone morphogenetic protein-2 in oallogeneic repair model of femoral segmental defect of rats. | Yamagata Med J. 2017; 35(2): 90-100 | Original Article |
| 92 | Yamada S, Honma R, Kaneko MK,et al. | 整形外科 | Characterization of anti-bovine podoplanin monoclonal antibody Pmab-44. | Monoclon Antib Immunodiagn Immunother. 2017 Jun; 36(3): 129-134 | Original Article |
| 93 | Takagi M, Takakubo Y, Pajarinen J,et al. | リハビリテーション 部、整形外科 | Danger of frustrated sensors: Role of Toll-like receptors and NOD-like receptors in aseptic and septic inflammations around total hip replacements. | J Orthop Translat. 2017 Jul; 10: 1-8 | Review |
| 94 | Narumi M, Takahashi K, Yamatani H, et al. | 産科婦人科 | Oxidative Stress in the Visceral Fat Is Elevated in Postmenopausal Women with Gynecologic Cancer. | J Womens Health.2018 Jan;27(1):99-106 B | Original Article |

小計 10

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|---|--|------------------|
| 95 | Nagase S, Ohta T, Seino M. | 産科婦人科 | Primary chemotherapy and targeted molecular therapy of epithelial ovarian cancer. | Frontiers in Ovarian Cancer Science. 2017 Sep; 207-224 | Others |
| 96 | Matsumura S, Ohta T, Yamanouchi K, et al. | 産科婦人科 | Activation of estrogen receptor α by estradiol and cisplatin induces platinum-resistance in ovarian cancer cells. | Send to Cancer biology & Therapy. 2017 Sep 2;18(9):730-739 | Original Article |
| 97 | Namba H, Kawasaki R, Sugano A, et al | 眼科 | Age-related changes in ocular aberrations and the Yamagata Study (Funagata). | Cornea. 2017 Nov; 36: S34-S40 | Original Article |
| 98 | Nishitsuka K, Nishi K, Namba H, et al | 眼科 | Intraoperative Optical Coherence Tomography Imaging of the Peripheral Vitreous and Retina. | Retina. 2018 Mar; 38(3): e20-e22 | Original Article |
| 99 | Namba H, Kawasaki R, Sugano A, et al. | 眼科 | Cross-sectional and Longitudinal Investigation of Power Vector in Astigmatism: The Yamagata Study (Funagata). | Cornea. 2018 Jan; 37(1): 53-58 | Original Article |
| 100 | Goto T, Shimotai Y, Matsuzaki Y et al. | 耳鼻科 | Effect of Phosphorylation of CM2 Protein on Influenza C Virus Replication. | Journal of virology. 2017 Oct; 91(22) | Original Article |
| 101 | Nishida H, Yamagishi A, Yagi M, et al. | 腎泌尿器外科学講 座 | Renoprotective Procedures with a Cold Ischemia Time of <60 min Minimize the Deterioration of Kidney Function in Open Nephron-Sparing Surgery for Renal Cell Carcinoma | Urologia Internationalis. 2017;99(3):283-289 | Original Article |
| 102 | Naito S, Makhov P, Astsaturov I, et al. | 腎泌尿器外科学講 座 | LDL cholesterol counteract the antitumour effect of tyrosine kinase inhibitors against renal cell carcinoma | Br J Cancer. 2017 Apr; 116(9):1203-1207 | Original Article |
| 103 | Fukuhara H, Ichiyanagi O, Kakizaki H, et al. | 腎泌尿器外科学講 座 | Prognostic utility of seasonal changes for diagnosis of ureteral stones | Urolithiasis. 2017 Apr; 45(2):233-234 | Original Article |
| 104 | Fukuhara H, Ichiyanagi O, Midorikawa S, et al. | 腎泌尿器外科学講 座 | Internal validation of a scoring system to evaluate the probability of ureteral stones: The CHOKAI score | Am J Emerg Med. 2017 Dec;35(12):1859-1866 | Original Article |
| 105 | Fukuhara H, Kakizaki H, Kaneko H, et al. | 腎泌尿器外科学講 座 | Successful Treatment with Paclitaxel, Carboplatin, and Gemcitabine as Second-line Chemotherapy for Recurrent Urothelial Carcinoma of the Bladder with Glandular Differentiation After Radical Cystectomy: A Case Report | Case Reports. 2017 Sep; 15:11-13 | Case Report |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|---------------------------|--|---|------------------|
| 106 | Makhov P, Naito S, Kolenko VM | 腎泌尿器外科学講 座 | Testing PARP Inhibitors Using a Murine Xenograft Model | Methods Mol Biol. 2017; 1608:313-320 | Review |
| 107 | Hayashi M,Yaguchi Y,Okamura K,et al | 麻酔科 | A case of extensive burn without sepsis showing high level of plasma presepsin (sCD14-ST). | Burns Open.2017 July;1:33-36 | Original Article |
| 108 | Onodera Y, Akimoto R, Suzuki H,et al | 麻酔科 | A high-flow nasal cannula system with relatively low flow effectively washes out CO2 from the anatomical dead space in a sophisticated respiratory model made by a 3D printer | Intensive Care Medicine Experimental.2018 Mar;6: 7 | Original Article |
| 109 | Yashima N, Watanabe T, Kurota M,et al | 麻酔科 | Autologous transfusion in radical prostatectomy: Assessment of coagulability by rotational thromboelastometry. | Yamagata Med J. 2017July; 35(2): 108-114 | Original Article |
| 110 | Yusa K, Yamanouchi H, Yoshida Y, et al. | 歯科口腔外科 | Evaluation of quality of life and masticatory function in patients treated with mandibular reconstruction followed by occlusal rehabilitation with dental implants: A preliminary report. | Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2017;9(6)499-503 | Original Article |
| 111 | Ishikawa S, Sugimoto M, Kitabatake K, et al. | 歯科口腔外科 | Effect of timing of collection of salivary metabolomic biomarkers on oral cancer detection. | Amino Acids. 2017 Apr;49(4):761-770 | Original Article |
| 112 | Yusa K, Yamanochi H, Takagi A, et al | 歯科口腔外科 | Three-Dimensional Printing Model as a Tool to Assist in Surgery for Large Mandibular Tumour: a Case Report. | J Oral Maxillofac Res. 2017 Jun 30;8(2):e4 | Case report |
| 113 | Yusa K, Yamanouchi H, Sugano A, et al. | 歯科口腔外科 | Successful Outcome of Low-Dose S- 1 Used to Treat Buccal Squamous Cell Carcinoma. | Case Rep Oncol Med. 2017;2017:4537631 | Case report |
| 114 | Kuramoto K, Suzuki S, Sakaki H, et al. | 腫瘍内科 | Licochalcone A specifically induces cell death in glioma stem cells via mitochondrial dysfunction. | FEBS Open Bio. 2017 May 8;7(6):835-844 | Original Article |
| 115 | Takeda H, Okada M, Kuramoto K, et al. | 腫瘍内科 | Antitumor activity of gemcitabine against high-grade meningioma in vitro and in vivo. | Oncotarget. 2017 Jun 29;8(53):90996-91008 | Original Article |
| 116 | Nakamura S, Narimatsu H, Katayama K, et al. | 腫瘍内科 | Effect of genomics-related literacy on non-communicable diseases. | J Hum Genet. 2017 Sep;62(9):839-846. | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|---------------------------|---|--|------------------|
| 117 | Okada M, Takeda H, Sakaki H, et al. | 腫瘍内科 | Repositioning CEP-1347, a chemical agent originally developed for the treatment of Parkinson's disease, as an anti-cancer stem cell drug. | Oncotarget. 2017 Oct 24;8(55):94872-94882. | Original Article |
| 118 | Sanomachi T, Suzuki S, Kuramoto K, et al. | 腫瘍内科 | Olanzapine, an Atypical Antipsychotic, Inhibits Survivin Expression and Sensitizes Cancer Cells to Chemotherapeutic Agents. | Anticancer Res. 2017 Nov;37(11):6177-6188. | Original Article |
| 119 | Wu F, Narimatsu H, Li X, et al. | 腫瘍内科 | Non-communicable diseases control in China and Japan. | Global Health. 2017 Dec 20;13(1):91 | Original Article |
| 120 | Shida T, Endo Y, Shiraishi T, et al. | 腫瘍内科 | Economic Evaluation of mFOLFOX6-based First-line Regimens for Unresectable Advanced or Recurrent Colorectal Cancer Using Clinical Decision Analysis | Yakugaku Zasshi. 2018;138(1):83-90 | Original Article |
| 121 | Ohe R, Aung NY, Shiono Y, et al. | 病理診断科 病理部 | Detection of Minimal Bone Marrow involvement of Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplastic Cells - CD303 immunostaining as a diagnostic tool. | J Clin Exp Hematop. 2018 Mar 16;58(1):1-9 | Original Article |
| 122 | | | | | |
| 123 | | | | | |
| 124 | | | | | |
| 125 | | | | | |
| ~ | | | | | |

小計 5

計121件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|---------------------------|----|---------------|------------------|
| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
| 1 | | | | | Original Article |
| 2 | | | | | Case report |
| 3 | | | | | |
| ～ | | | | | |

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|----------------------------|------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 審査の流れについて記載。 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年21回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|--|------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの定義、委員会の設置、実施方法等について。 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年12回 |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-----|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年1回 |
| ・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理方針」及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」改正に関する説明、倫理審査委員会への申請方法、申請内容の留意点、利益相反管理、研究倫理について。 | |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところである。山形大学では、各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組み立てた独自の専門医養成プログラムを有している。

また、山形大学には県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、これにより大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能である。さらに、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | |
|-------------|------|
| 上記研修を受けた医師数 | 189人 |
|-------------|------|

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|------------|-----|--------|------|
| 上野 義之 | 内科 | 教授 | 31年 | |
| 大谷 浩一 | 精神科 | 教授 | 37年 | |
| 三井 哲夫 | 小児科 | 教授 | 30年 | |
| 木村 理 | 外科 | 教授 | 39年 | |
| 園田 順彦 | 脳神経外科 | 教授 | 26年 | |
| 佐竹 寛史 | 整形外科 | 講師 | 18年 | |
| 鈴木 民夫 | 皮膚科 | 教授 | 34年 | |
| 土谷 順彦 | 泌尿器科 | 教授 | 30年 | |
| 山下 英俊 | 眼科 | 教授 | 37年 | |
| 欠畑 誠治 | 耳鼻咽喉科 | 教授 | 31年 | |
| 根本 建二 | 放射線科 | 教授 | 36年 | |
| 永瀬 智 | 産婦人科 | 教授 | 27年 | |
| 川前 金幸 | 麻酔科 | 教授 | 36年 | |
| 中根 正樹 | 救急科 | 准教授 | 25年 | |
| 高木 理彰 | リハビリテーション科 | 教授 | 32年 | |
| 山川 光徳 | 病理 | 教授 | 37年 | |
| 渡辺 昌文 | 総合診療 | 教授 | 29年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
ME機器セミナーⅠ：シリンジポンプ・輸液ポンプ・重症監視モニターの取扱いについて
- ・研修の期間・実施回数
平成29年4月17日，18日・2回
- ・研修の参加人数
看護師：62名
薬剤師：5名
作業療法士：2名
理学療法士：2名

- ・研修の主な内容
ME機器セミナーⅡ：人工呼吸器，NPPV，SCD，メラサキューム，除細動器，心電計の取扱いについて
- ・研修の期間・実施回数
平成29年5月15日，16日・2回
- ・研修の参加人数
看護師：61名
薬剤師：5名
作業療法士：2名
理学療法士：2名

- ・研修の主な内容
ME機器セミナー中級編：シリンジポンプ，輸液ポンプ，人工呼吸器，NPPVのトラブルシューティング
- ・研修の期間・実施回数
平成29年10月30日，31日，11月1日・3回
- ・研修の参加人数
看護師：86名
理学療法士：2名

- ・研修の主な内容
緊急気道管理に関する院内講習会（講義編）：気道トラブルの危険性と予防法，緊急性の判断
・低酸素脳症に関する基礎知識・循環器疾患による呼吸停止・気管切開の適応と気管切開後の気道管理・困難気道アルゴリズムと新しい気道確保デバイスi-gelについて
- ・研修の期間・実施回数
平成29年5月24日・1回
- ・研修の参加人数
看護師111名
薬剤師：4名
理学療法士：8名
作業療法士：6名
言語聴覚士：2名

- ・研修の主な内容
緊急気道管理に関する院内講習会（実技編）：エアウェイスコープ、ファイバースコープ、クイックトラック、i-gelの使用法
- ・研修の期間・実施回数
平成29年5月31日，7月27日・2回
- ・研修の参加人数
看護師：60名
薬剤師：5名

- ・研修の主な内容
静脈注射教育プログラム講習会：静脈注射の注意点，静脈注射を安全に行うための解剖生理及び近年の訴訟事例，職業感染について，静脈注射をより安全・確実にーその知識と手技ー
- ・研修の期間・実施回数
平成29年10月10日
- ・研修の参加人数
看護師：54名

- ・研修の主な内容
保険診療の理解について
- ・研修の期間・実施回数
平成29年4月～平成30年3月まで(年2回)
- ・研修の参加人数
約270名（1回につき）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 (2) 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 根本 建二 |
| 管理担当者氏名 | 薬剤部長 (代理) 細谷 順、看護部長 斉藤 律子、 総務課長 後藤 尚宏、医事課長 東海林 守一 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---------------------------------|--------------------|--|--|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 病院日誌 | 総務課 ファイルにて年度毎に分類、保管している。 |
| | | 各科診療日誌 | 看護部 ファイルにて年度毎に分類、保管している。 |
| | | 処方せん | 薬剤部 紙面にて入院、外来別、月毎に分類、保管している。 |
| | | 手術記録 | 医療情報部 (診療記録室) カルテ等病歴資料やエックス線写真は電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが、一部の診療科においては、紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状等の文書はスキャンし、タイムスタンプを取得の上、電子データを保存し原本としている。 貸出を受けた紙診療録は、病院外に持ち出すことはできない。ただし、事前に所定の院外借用申請書を提出し、許可を受けた資料袋の病院外借用の場合は、その限りではない。 |
| | | 看護記録 | |
| | | 検査所見記録 | |
| | | エックス線写真 | |
| | | 紹介状 | |
| 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 各担当でファイルにて年度ごとに分類、保管している。 |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 医事課 |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 |
| | | 閲覧実績 | 総務課 |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 |
| | | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課 薬剤部 |
| | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医事課 ファイルにて年度ごとに分類、保管している。 |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医事課 |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医事課 |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医事課 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|------------------|---|---|---------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 医事課 |
| | 第二項 | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 医事課 |
| | 第一号 | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 医事課 |
| | 第三号 | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御部 |
| | 第四号 | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | 第五号 | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | 第六号 | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | 第七号 | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | 第八号 | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 総務課 |
| | 第九号 | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | MEセンター 医事課 |
| | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | MEセンター | |
| | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | MEセンター | |

各担当でファイルにて年度ごとに分類、管理している。

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---------------------------------|--|--|-------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 医事課 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 医事課 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 医事課 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 医事課 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医事課 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 医療支援課 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 医療支援課 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 医事課 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医事課 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 医事課 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 医事課 |
| | | 職員研修の実施状況 | 医事課 |
| | | 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 医事課 |
| 管理者が有する権限に関する状況 | 医事課 | | |
| 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 | 医事課 | | |
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 | 医事課 | | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | |
|---|---------------|---------------------------------------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | <input checked="" type="radio"/> ② 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 根本 建二 | |
| 閲覧担当者氏名 | 医学部総務課長 後藤 尚宏 | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 医学部管理棟第一会議室 | |
| 閲覧の手続の概要 閲覧請求者は、閲覧申込書に必要な事項を記入し、必要書類（資格・身分を証明する証明書など）を添えて、医学部総務課庶務担当に提出することで、閲覧の請求をすることができる。 | | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | ①・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（①・無） ・ 開催状況：年 16回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全の指針に関する事 (2) 医療事故に係る体制に関する事 (3) 医療事故又はその恐れがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定（影響度レベル及び過失の有無）並びに対応策に関する事 (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関する事 (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関する事 (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして、病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関する事 (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関する事 (8) そのほかの安全管理に関する必要な事項 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 4回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容 (2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容 (3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（①・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで、当院における問題点を把握し、組織をしての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し、これらの情報を共有する。 (2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し、検討された効果的な再発防止策を立案する。 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | (有)・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方 (2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項 (3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針 (5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針</p> | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 12回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。 (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る (3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。</p> | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 5回 |
| <p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <p>(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容 (2) 病院の実情に即した内容 (3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容</p> | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 毎月1回、院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。 また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。(MRSA、多剤耐性緑膿菌等主要検出菌10数種類を週報として把握) (2) 院内感染対策の指針に即した院内感染対策マニュアル「院内感染の手引き」を整備し、各部署への配付並びに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | ○有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 12回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項 | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品安全管理責任者及び担当者に関する事項 (2) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (3) 本院における医薬品の管理に関する事項 (4) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (5) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (6) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (7) 本院と他施設との連携に関する事項 |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： イフェンプロジル錠のがん性神経障害疼痛への使用(適応外)など 適応外・禁忌77品目 新規未承認なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 厚生労働省からの副作用情報 (2) 採用医薬品の一増一減徹底 (3) 院内採用麻薬製剤の取扱い方の再確認と一覧配布 (4) 処方箋控えへの抗凝固薬等ハイリスク薬のアイコン表示の検討 (5) 未承認等医薬品への対応フロー構築 |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | (有)・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 10回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項 (2) 医療機器の使用方法に関する事項 (3) 医療機器の保守点検に関する事項 (4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項 (5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点(年1回)を実施している。 (2) 人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (3) 血液浄化装置については始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (4) 除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。 (5) 閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。 (7) 診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 (8) シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機器添付文書等の整理 (2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告 (3) 医療安全管理部との情報共有や合同勉強会の開催 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

| | |
|---|-----------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | ① 有・無 |
| <p>・責任者の資格(医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が(副病院長(医療安全担当)が、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | ② 有(1名)・無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室において情報を収集・管理。 随時病棟等へ文書で周知。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認新規医薬品評価部門で審議。適応外、禁忌は倫理委員会等で審議。</p> <p>・担当者の指名の有無(有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部，職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | ④ 有・無 |
| <p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 山形大学医学部附属病院診療録記載要項及び山形大学医学部附属病院の医療に関する安全管理指針に基づき、診療録等の記載内容確認を定期的に行い、必要に応じて診療録の記載方法や内容の指導を行う。</p> | |
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | ⑤ 有・無 |
| <p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 山形大学医学部附属病院診療録記載要項に基づき、診療録記載の実施状況確認を定期的に行っている。また、入院時、診察時の診療録記載、及び退院サマリ・入院診療計画書・手術記録・カンファレンス時の記載内容等について、記載方法や内容について指導を行う。</p> | |

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（ 6 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 19 ）名
 - うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 6 ）名
 - うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名
 - うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 6 ）名
- （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療事故等防止対策委員会の会議に関する事、その他庶務に関する事
- (2) インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事
- (3) 安全管理のための研修、啓発普及、教育等の企画立案及び実施に関する事
- (4) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関する事
- (5) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関する事
- (6) 事故等の原因究明についての確認・指導に関する事
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整に関する事
- (8) 医療安全管理に資する診療状況の把握及び職員の医療安全に関する意識の向上の確認に関する事
- (9) その他医療安全対策の推進に関する事

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

適用なし

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

診療内容のモニタリングについては、肺血栓塞栓症予防策指示書や転倒の危険度チェックシート等の使用状況を確認しており、必要に応じてチェックシートの内容を再検討している。また、手術部のオカレンスレポート件数及びその中からインシデントとして報告された件数とその内容を確認している。

医療安全の認識についてのモニタリングは、全職員の医療安全に関する研修の受講状況等により確認を行っている。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
 - 平成 29 年 5 月に 1 件の申請があり、部門会議及び評価委員会を開催し審議した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
平成29年度において、本件に関する申請はない。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年322件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年2件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 安全管理の指針に関すること
 - (2) 医療事故に係る体制に関すること
 - (3) 医療事故又はそのおそれがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定（影響度レベル及び過失の有無）並びに対応策に関すること
 - (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること
 - (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること
 - (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査。分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関すること
 - (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること
 - (8) その他安全管理に関する必要な事項

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：京都大学医学部附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：山口大学医学部附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
 - (1) 未読レポートへの対応として、医療安全管理部門において、定期的に各診療科の既読管理状況を確認することとし、レポートの依頼医にレポート内容の確認を促すシステムの構築を予定している。
 - (2) 監査委員会において、平成30年度の監査内容に「患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の活動状況の確認」を設定した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者からの相談については、医療相談室で対応し、安全管理に係る相談についても、医療安全管理部及び関係部署と連携の上、対応するとともに管理者への報告も実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- 平成29年4月4日：医療におけるリスクマネジメント
- 平成29年4月5日：インフォームド・コンセントについて
- 平成29年4月11日：医療安全管理実習
- 平成29年4月17日、18日：ME機器セミナーⅠ
- 平成29年5月15日、16日：ME機器セミナーⅡ
- 平成29年5月22日、29日、6月1日：医療におけるリスクマネジメント
- 平成29年5月24日：緊急気道管理に関する院内講習会（講義編）
- 平成29年5月31日、7月27日：緊急気道管理に関する院内講習会（実技編）
- 平成29年7月5日：免疫チェックポイント阻害剤への対応、高難度新規医療技術の導入について、未承認新規医薬品に関する医療提供
- 平成29年8月1日、2日：医療におけるリスクマネジメント
- 平成29年10月10日：静脈注射教育プログラム講習会
- 平成29年10月30日、31日、11月1日：ME機器セミナー中級編（トラブルシューティング）
- 平成29年11月20日、21日、22日：医療におけるリスクマネジメント

平成 29 年 12 月 6 日：中心静脈カテーテル挿入に関するセミナー

平成 30 年 1 月 15 日：特定機能病院の承認要件見直しへの対応について

平成 30 年 2 月 28 日、3 月 1 日：医療におけるリスクマネジメント

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：平成 30 年 3 月 13 日、14 日 平成 29 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：平成 30 年 2 月 21 日、22 日 平成 29 年度特定機能病院管理者養成研修（公益財団法人日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：平成 30 年 6 月 24 日 医薬品安全管理責任者講習会（一般社団法人日本病院薬剤師会）

医療機器安全管理責任者：平成 30 年 3 月 13 日、14 日 平成 29 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構）

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

| |
|--|
| <p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載 |
|--|

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

| | |
|---|--------------------------------------|
| 前年度における管理者の選考の実施の有無 | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載 | |

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 特別の関 係 |
|----|----|---------------|------|-----------|
| | | | | 有・無 |
| | | | | 有・無 |
| | | | | 有・無 |
| | | | | 有・無 |

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

| | |
|---|-------|
| 合議体の設置の有無 | (有)・無 |
| <p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 本院の運営方針及び理念に関する事項</p> <p>(2) 本院の中期目標、中期計画及び年度計画に関する事項</p> <p>(3) 本院の予算及び決算に関する事項</p> <p>(4) 本院の医師、看護師等職員の人事に関する事項</p> <p>(5) 本院の医師、看護師等職員の負担軽減及び処遇改善に関する事項</p> <p>(6) その他病院長が必要と認める重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営委員会に報告</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・公表の方法 本学のホームページに掲載</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無))</p> | |

合議体の委員名簿

| 氏名 | 委員長 (○を付す) | 職種 | 役職 |
|-------|---------------|------|-----------|
| 根本 建二 | ○ | 医師 | 病院長 |
| 久保田 功 | | 医師 | 理事 (病院担当) |
| 山下 英俊 | | 医師 | 学部長 |
| 嘉山 孝正 | | 医師 | 参与 |
| 上野 義之 | | 医師 | 副病院長 |
| 佐藤 慎哉 | | 医師 | 副病院長 |
| 高木 理彰 | | 医師 | 副病院長 |
| 鈴木 民夫 | | 医師 | 副病院長 |
| 欠畑 誠治 | | 医師 | 副病院長 |
| 飯野 光喜 | | 歯科医師 | 医学部教授 |
| 村上 正泰 | | 教員 | 医学部教授 |
| 細谷 順 | | 薬剤師 | 薬剤部長 (代理) |
| 斉藤 律子 | | 看護師 | 看護部長 |
| 山腰 俊昭 | | 事務職員 | 事務部長 |

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- 公表の方法
本学のホームページに掲載
- 規程の主な内容
学長から委任される業務執行権限内容。
 - (1) 予算の執行及び決算に関する業務
 - (2) 施設・設備等の管理に関する業務
 - (3) 他の全学的事項を定めた規則で規定されている業務
 - (4) その他本法人の経営に関する業務のうち、学長が必要と認める業務
 - (5) 医療法に定める医学部附属病院の管理業務
- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - (1) 副院長：教育・医療安全
 - (2) 副院長：経営・財務
 - (3) 副院長：広報・地域連携
 - (4) 副院長：外部評価・診療
 - (5) 副院長：国際化
- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
副院長による、医療安全管理研修、国立大学附属病院 病院経営次世代リーダー養成塾等への参加。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

| | |
|---|-------|
| 監査委員会の設置状況 | (有)・無 |
| <p>・ 監査委員会の開催状況：年 3回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること</p> <p>(2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：本学のホームページに掲載</p> | |

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|----------------------------|---------------|---------------------------------------|-------|---------------|
| 栗谷 義樹 | 地方独立行政法人山形県・酒田市 病院機構理事長 | ○ | 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者 | 有・(無) | 1 |
| 阿彦 忠之 | 山形県健康福祉部医療統括監 | | 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 | 有・(無) | 2 |
| 久保田 功 | 山形大学理事(病院担当) | | 病院関係業務を担当する理事 | (有)・無 | 3 |
| 西岡 正樹 | 山形大学学術研究院准教授(人文社会科学部担当) | | 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者 | (有)・無 | 1 |
| 佐多 和子 | 山形家庭裁判所家事調停委員 | | 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 | 有・(無) | 2 |
| | | | | 有・無 | |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監査室を設置しており、監事及び会計監査人と連携し、定期監査及び臨時監査を実施している

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法 本学のホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

| | | | |
|--|----|---------------|------|
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 「山形大学医学部附属病院管理運営委員会」が体制を兼ねている。 ・ 会議体の実施状況（年40回）※規程により、原則週1回実施 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年40回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 本学のホームページに掲載 | | | |
| 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： | | | |
| 会議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 利害関係 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

| 窓口の状況 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 ホームページへ掲載、院内の各部署へ通知を送付 |